MSワードを用いて図表を合わせ全体でファイルサイズ5Mバイト程度に収まる様に作製して下さい。

頁の余白は上：35mm、下：30mm、 左：20.3mm、 右：20.3mm、ヘッダー：15mm、 フッター：17.5mm

インデントは可能な限り使用せずに文頭には全角スペースを入れて一字下げて下さい。

ワードの『箇条書きと段落』機能による『・』『①』の自動挿入は行わないで下さい。html化した際に消えてしまいます。

フォントは指定無き場合はプレーンの12ptでOsakaまたはMS明朝を使用し、原稿の行間は１行、全て両端揃えで作成して下さい。

図表は本文の最後に添付して下さい。

図表には通し番号を付け、レジェンドも記載して下さい。

レジェンドは画像ファイル中に組み込まず、本文中（テキストボックス中も可）に記載して下さい。

**タイトル(14pt、Bold)：**（本プロトコールのタイトルを記入）

**所属(12pt、Bold)**（所属は・で区切る。複数の所属は半角数字で左肩上付きで。例：1産総研、2阪大・蛋白研）

**著者名(12pt、Bold)**（姓と名の間にスペースを空ける。複数の異なる所属の著者は半角数字で右肩上付きで。例：萩原　義久1、高橋　聡2）

**英文タイトル（12pt）**

**英文所属（10pt）**

**英文著者名（10pt）**

（投稿日year/month/day、再投稿日year/month/day、受理日year/month/day）：編集部で記入

キーワード（12pt、Plane）

（本プロトコールのキーワードを５個程度記載）

以下項目見出しは**12pt、Bold**で作成

※インデントは可能な限り使用せずに文頭には全角スペースを入れて一字下げて下さい。

※ワードの『箇条書きと段落』機能による『・』『①』の自動挿入は行わないで下さい。html化した際に消えてしまいます。

**概要**

本文（12pt、Plane）

（本プロトコールの概要を簡単にわかり易く記載。実験にかかる日数や時間についても可能であれば記述）

**目的・イントロダクション等**

本文（12pt、Plane）

（概要に含めるも可）

**装置・器具・試薬**

本文（12pt、Plane）

特に指定のメーカーなどある場合は、その情報も記載。

**実験手順**

本文（12pt、Plane）

（実験の流れを区分。大区分、小区分と階層的にフローを区分した方が分かり易い場合には大区分ー小区分で分ける。例えば実験が数日にわたる場合、日にちごとのフローを記載）また、長くなりすぎる場合には適当なところ（A4一枚程度）で改ページを挿入。

１）※ワードの『箇条書きと段落』機能による『・』『①』の自動挿入は行わないで下さい。html化した際に消えてしまいます。

２）

３）

４）

５）

ここで改ページ

**実験の詳細**

本文（12pt、Plane）

初めて当該実験を行う者を想定し、可能な限り詳細にお書き下さい（大区分がある場合には大区分毎に改ページ）

１）

２）

３）

４）

５）

ここで改ページ

**工夫とコツ**

**コツの見出し（12pt、Bold）**

本文（12pt、Plane）

(本プロトコールにおけるTipsについて記載。また、著者の感想や、原理不明であるが役立つ情報なども記載してあると望ましい。)

**実験の安全**

本文（12pt、Plane）

（実験を行う上での安全上の注意点を簡潔にご記入下さい。例えば、『＊＊＊は揮発性が強く有毒である。この薬品を使用する場合には必ずドラフト中で行うこと』など）

**文献**

本文（12pt）以下の例に従うこと

1) Hagihara, Y. et al., *J. Biol. Chem.*, **282**, 36489-95 (2007)

2) 萩原　義久, *抗体医薬の最前線* (植田充美) 66-79, ジーエムシー出版 (2007)

3) 萩原　義久, *生物物理*, **36,** 186-8 (1996)

4) Hagihara, Y. & Goto, Y., *Molecular Chaperones in the Life Cycle of Proteins* (ed. Fink, A. L. & Goto, Y.) 1-33, Marcel Dekker, New York (1997)

ここで改ページ

**図**

(図がある場合は図１や表１などの通し番号をつける。レジェンドは画像ファイル中に組み込まず、本文中またはテキストボックス中に記載する。画像は300dpi程度のJPEGファイルで作成する。)